

## 報 告

NICU スタッフによる父親への育児支援の  
実施状況と関連要因

川 合 美 奈

## 〔論文要旨〕

NICU スタッフ230名を対象とし、質問紙調査により育児支援の実施状況と関連要因を明らかにした。父親への育児支援をいつも行うスタッフは23.5%であった。育児支援の実施内容には、認定看護師、育児経験、父親育児の学習の経験、面会時間の配慮、父親へのカンガルーケア、父親の育児参加を勧める取り組み、育児プログラムの有無、育児支援の必要性、支援対象者、父親への育児支援内容、父親の育児に関するネガティブな感情を軽減する関わりが関連していた。父親への育児支援の実施を推進するには、NICU スタッフが育児支援の必要性を認識し、父親への関心を高めることが重要である。そのため、父親も不可欠な主育児者の一人であると意識できる教育が求められる。

Key words : 父親, 育児, 指導, NICU, 看護師

## I. 目 的

入院期間中にも、子どもは発育していくことから、新生児特定集中治療室（以下、NICU）は治療環境であると同時に育児環境である<sup>1)</sup>。しかし、多くのNICUに入院する児（以下、NICU入院児）は医療的措置が講じられており、正期産児のように出生後の早期から、両親が児と触れ合い、ましてや育児行為を経験することは難しい。父親にとって育児行為の体験は、子どもに触れ、存在を体感することにより、“父親”を実感するきっかけとなる<sup>2)</sup>。NICUにおける父親の対児感情の変化を調べた研究によると、子どもの受け入れをしがたい理由として、“怖い”が最も多く、ネガティブな感情の存在が明らかになっている<sup>2)</sup>。NICU入院児の父親のように、育児行為の開始時期の遅れや児との接触の機会が少ない場合、“怖い”等のネガティブな感情が払拭されず、父親としての実感が

得にくくなる。NICU入院児が多く持つとされる虐待リスク因子<sup>3)</sup>を少しでも減らすためにも、できる限り早期から児と父親との接触の機会を持つことが重要である。父親が児に接触する機会の一つとしてNICUに勤務する看護スタッフ（以下、NICUスタッフ）による育児支援の役割は大きいと考える。NICUスタッフによる父親への育児支援が、父親としての実感や、父親の育児に対する関心を高め、父親による母親への情緒親密なサポートを促す動機付けとなる。その結果、父親のサポートを得られているという母親の実感が、子どもとの安定した愛着形成や育児負担感の軽減に繋がることを期待できる。しかし、NICUスタッフによる父親への育児支援の実態は明らかではない。そこで、本研究はNICUスタッフによる父親への育児支援の実施状況と関連する要因を明らかにすることを目的とした。

The Related Factors to the Child Care Support for Fathers by NICU Staff

Mina KAWAI

北海道医療大学看護福祉学部母子看護学講座（看護師 / 研究職）

別刷請求先：川合美奈 聖徳大学看護学部看護学科 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550

Tel : 047-365-1111 Fax : 047-363-1404

(2621)

受付 14. 3. 24

採用 14.10.17

## II. 対象と方法

北海道内の NICU 病床を有する 29 病院<sup>4)</sup>のうち平成 23 年 6 月現在で NICU の実際の稼働がないと回答のあった 4 病院を除き、研究協力の同意が得られた 25 病院（総合周産期母子医療センター：5 施設，地域周産期母子医療センター：19 施設，特定機能周産期母子医療センター：1 施設）に所属する NICU スタッフ計 433 名を対象者とし、郵送法による無記名質問紙調査を実施した。平成 24 年 6 月 20 日～8 月 3 日の調査期間に 25 病院中 22 病院（回収率 88.0%）から回収できた質問紙 230 名分（回収率 53.1%）を分析対象とした。

### 1. 調査項目

#### i. NICU スタッフおよび NICU の特性

NICU スタッフの特性として、性別、年齢、看護師としての勤務経験年数（以下、看護師経験年数）、NICU での勤務経験年数（以下、NICU 経験年数）、新生児集中ケア認定看護師（以下、認定看護師）資格の有無、助産師資格の有無、自身の幼児期の主たる育児者（以下、幼児期の主育児者）、自身の幼児期の父親の育児参加（以下、幼児期の父親の育児参加）の有無、育児の経験の有無と、その際の配偶者の育児協力の有無（以下、配偶者の育児協力）、父親の育児参加に関する研修や学習の経験（以下、父親育児の学習の経験）の有無について尋ねた。NICU の特性として、認定看護師の在籍の有無、面会時間の制限の有無、仕事を持つ両親への面会時間の配慮（以下、面会時間の配慮）の有無、父母へのカンガルーケアの実施の有無、父親の育児参加を推奨する NICU としての取り組み（以下、父親の育児参加取り組み）の有無、育児支援プログラムの有無とプログラムの対象者（以下、プログラム対象者）を、「両親」、「母親」、「父親」、「その他」の 4 肢択一で尋ねた。

#### ii. 父親への育児支援の必要性の認識と父親心理の把握

父親への育児支援の必要性の認識について、「とても必要」、「まあ必要」、「あまり必要ない」、「必要ない」の 4 肢択一で尋ねた。そして、育児支援対象者と主育児者は誰であると思うかを、「両親」、「母親」、「父親」、「その他」の 4 肢択一で尋ねた。育児における父親の役割を、母親との育児分担、経済的な支援、母親への精神的な支援の 3 項目より 3 肢複択で尋ねた。

父親の心理の把握は、父親が希望する育児支援内容を、

母親および父親自身それぞれに関して、「いつもする」、「場合によってする」、「しない」の 3 肢択一で尋ねた。また、父親が育児に関してネガティブな感情を抱いているかを、母親および父親自身それぞれに関して、「いつもする」、「場合によってする」、「しない」の 3 肢択一で尋ねた。そして、父親の育児に関するネガティブな感情を軽減する関わりについては、「した」、「していない」の 2 肢択一で尋ねた。

#### iii. 父親への育児支援の実施

父親への育児支援の実施は、「いつも行う」、「必要な時に行う」、「行わない」の 3 肢択一で尋ねた。「行わない」と回答した場合には、その理由を自由記述法で確認した。

#### iv. 分析方法

Microsoft Excel にて各項目の回答の単純集計を実施した。年齢、看護師・NICU 経験年数を 3 区分とした。父親への育児支援の必要性の認識について、「とても必要」、「まあ必要／あまり必要ない／必要ない」の 2 区分とした。育児支援対象者を、「母親」、「両親／父親／その他」の 2 区分とした。主育児者は誰であると思うかを、「母親」、「両親／父親／その他」の 2 区分とした。父親が希望する育児支援内容の確認と、父親が育児に関するネガティブな感情を抱いているかの確認を、「いつもする」、「場合によってする／しない」の 2 区分とした。父親への育児支援は、「いつも行う」、「必要な時に行う／行わない」の 2 区分とした。IBM SPSS Statistics 21 を用いて父親への育児支援の実施状況と NICU スタッフおよび NICU の特性、育児支援の必要性の認識と父親心理の把握についてフィッシャーの直接確率検定、 $\chi^2$  検定を行った。有意水準は 5% とした。

## 2. 倫理的配慮

調査に先立ち、北海道医療大学看護福祉学研究科倫理委員会の承認を得た（受付番号第 11 号）。調査対象者に、研究主旨、研究への協力に不同意の場合でも、不利益を被ることはないこと、途中撤回の自由、個人情報保護の方法について書面での説明を行った。質問紙の返送をもって同意とみなし実施した。

## III. 結果

### 1. NICU スタッフおよび NICU の特性（表 1）

対象者の性別は女性が 224 名（99.6%）、年齢は 20～

30歳が90名(40.0%), 看護師経験年数は11年以上が107名(47.8%), NICU経験年数は3~10年が118名(52.7%), 認定看護師ではない者が215名(96.8%)であった。また, 助産師ではない者が174名(77.3%)であった。NICUスタッフ自身の幼児期の主育児者は168名(75.3%)が「母親」で, 幼児期に父親が育児参加をしていたかの問いには108名(48.9%)が「していた」と回答した。NICUスタッフのうち70名(31.3%)は育児経験者で, その際に配偶者が育児協力を「してくれた」との回答は49名(71.0%)であった。また, これまでに父親育児の学習の経験がないとの回答は201名(89.3%)であった。

NICUの特性では, 勤務するNICUに新生児集中ケア認定看護師が在籍すると136名(60.4%)が回答した。面会時間の制限があるとの回答は199名(88.8%)だが, 仕事を持つ両親への面会時間の配慮があると165名(74.3%)が回答した。カンガルーケアは, 母親への実施は205名(91.1%), 父親への実施は195名(87.1%)であった。NICUとして父親の育児参加取り組みがないと118名(57.8%)が回答した。育児支援プログラムがあるとの回答は122名(54.5%)であった。その育児支援プログラムの対象者は63名(51.6%)が「両親」を対象としたものであった。

## 2. 父親の育児に関する認識と父親心理の把握 (表2)

父親への育児支援は必要があるかの問いには「とても必要」と134名(59.3%)が回答した。育児支援の対象者は「母親」と215名(95.1%)が, 主育児者は「両親/父親/その他」と131名(58.7%)が認識していた。NICUスタッフが認識する育児における父親の役割は「育児分担である」と200名(89.3%)が, 「経済的支援である」と128名(57.1%)が, 「精神的支援である」と197名(87.9%)が回答した。父親への育児支援内容の確認を母親に「いつもする」者は47名(20.8%), 父親への育児支援内容の確認を父親自身に「いつもする」者は28名(12.4%)であった。父親が育児に対してネガティブな感情を抱いているかの確認を母親に「いつもする」者は27名(12.0%)で, 父親自身に「いつもする」者は20名(8.9%)であった。また, 父親の育児に関するネガティブな感情を軽減するような関わりを「した」者は157名(75.5%)であった。

## 3. NICUスタッフによる父親への育児支援の実施

### i. 父親への育児支援の実施

父親への育児支援の実施状況を問うと「いつも行う」者は54名(23.5%)で, 「必要な時に行う」者は172名(74.8%), 「行わない」者は4名(1.7%)であった。父親に育児支援の実施をしていない理由を自由記述で得たところ, 「父親と接する時間がない」, 「父親に支援する場面がない」, 「父親本人からの希望がある場合にしか行わない」, 「父親が怖がって入室しながらない」, 「まずは母親と思うと父親の出番が少ない」, 「母親から父親へ教えてもらえらると思う」等であった。

### ii. 父親への育児支援の実施とNICUスタッフおよびNICUの特性, 父親の育児支援に対する認識, 父親心理の把握との関連 (表1, 2)

NICUスタッフによる父親への育児支援の実施との関連をみると, NICUスタッフの特性では, 「認定看護師である」, 「育児経験がない」, 「父親育児の学習の経験がある」場合に, 父親への育児支援をいつも行う割合が有意に高かった。NICUの特性では, 「面会時間の配慮がある」, 「父親へのカンガルーケアを実施している」, 「父親の育児参加を勧める取り組みがある」, 「育児支援プログラムがない」, 「育児支援プログラム対象者が「両親」である」場合に, 父親への育児支援をいつも行う割合が有意に高かった。父親の育児支援に対するNICUスタッフの認識では, 「父親への育児支援はとても必要である」, 「育児支援対象者を「両親/父親/その他」と認識している」場合に父親への育児支援をいつも行う割合が有意に高かった。父親心理の把握では, 「父親への育児支援内容を母親および父親自身にいつも確認する」, 「父親の育児に関するネガティブな感情を母親にいつも確認する」, 「父親の育児に関するネガティブな感情を軽減する関わりをする」と回答した者は, 父親への育児支援をいつも行う割合が有意に高かった。

## IV. 考 察

### 1. NICUスタッフによる父親への育児支援の実施

父親への育児支援がとても必要であると認識するNICUスタッフが58.7%であるのに, 実際に父親への育児支援の実施を「いつも行う」と回答した者は23.5%と1/4に満たない結果であった。父親への育児支援を実施しない理由として, 自由記述回答をみると, 「まずは母親と思うと父親の出番が少ない」, 「母

表1 NICU スタッフおよびNICUの特性と父親への育児支援の関連

N=230

		n	父親への育児支援		p
			いつも行う	必要な時に行う 行わない	
NICU スタッフの特性					
性別	女性	224	54 (24.1)	170 (75.9)	NS
	男性	1	0 (0.0)	1 (100.0)	
年齢 (歳)	20~30歳	90	21 (23.3)	69 (76.7)	NS
	31~40歳	74	18 (24.3)	56 (75.7)	
	41歳以上	61	15 (24.6)	46 (75.4)	
看護師経験年数	0~2年	25	7 (28.0)	18 (72.0)	NS
	3~10年	92	20 (21.7)	72 (78.3)	
	11年以上	107	27 (25.2)	80 (74.8)	
NICU 経験年数	0~2年	82	15 (18.3)	67 (81.7)	NS
	3~10年	118	30 (25.4)	88 (74.6)	
	11年以上	24	9 (37.5)	15 (62.5)	
認定看護師の資格	あり	7	6 (85.7)	1 (14.3)	p<0.05
	なし	215	48 (22.3)	167 (77.7)	
助産師の資格	あり	51	12 (23.5)	39 (76.5)	NS
	なし	174	42 (24.1)	132 (75.9)	
幼児期の主育児者	母親	168	38 (22.6)	130 (77.4)	NS
	父親・両親・その他	55	16 (29.1)	39 (70.9)	
幼児期の父親の育児参加	していた	108	31 (28.7)	77 (71.3)	NS
	していなかった	113	23 (20.4)	90 (79.6)	
育児の経験	あり	70	10 (14.3)	60 (85.7)	p<0.05
	なし	154	43 (27.9)	111 (72.1)	
配偶者の育児協力*1	してくれた	49	7 (14.3)	42 (85.7)	NS
	してくれなかった	20	4 (20.0)	16 (80.0)	
父親育児の学習の経験	あり	24	10 (41.7)	14 (58.3)	NS
	なし	201	44 (21.9)	157 (78.1)	
NICU の特性					
認定看護師の在籍	あり	136	39 (28.7)	97 (71.3)	NS
	なし	89	15 (16.9)	74 (83.1)	
面会時間の制限	あり	199	44 (22.1)	155 (77.9)	NS
	なし	25	10 (40.0)	15 (60.0)	
面会時間の配慮	あり	165	46 (27.9)	119 (72.1)	p<0.05
	なし	57	8 (14.0)	49 (86.0)	
母親へのカンガルーケア	あり	205	52 (25.4)	153 (74.6)	NS
	なし	20	2 (10.0)	18 (90.0)	
父親へのカンガルーケア	あり	195	52 (26.7)	143 (73.3)	p<0.05
	なし	29	2 (6.9)	27 (93.1)	
父親の育児参加取り組み	あり	86	32 (37.2)	54 (62.8)	p<0.05
	なし	118	20 (16.9)	98 (83.1)	
育児支援プログラム	あり	122	21 (17.2)	101 (82.8)	p<0.05
	なし	102	32 (31.4)	70 (68.6)	
育児支援プログラムの対象者*2	母親	59	5 (8.5)	54 (91.5)	p<0.05
	両親	63	16 (25.4)	47 (74.6)	

p: フィッシャーの直接確立検定,  $\chi^2$ 検定, NS: 有意差なし

\*1 育児の経験があると回答した者 (n=70) に尋ねた。 \*2 育児支援プログラムがあると回答した者 (n=122) に尋ねた。

親から父親へ教えてもらえると思う」といった育児支援の主な対象者はあくまでも母親であり、母親がわかっているだけで十分であるという認識が反映された回答があった。小西<sup>5)</sup>によると、NICU 入院児へのケアに

ついて、哺乳びん授乳、沐浴、おむつ交換、カンガルーケア、抱っこ等の項目でケアを行いたくなかったとする父親が存在する。本研究でも、「父親が怖がって入室したがらない」という回答があったように、父親に

表2 NICU スタッフによる父親の育児支援に対する認識と父親心理の把握

N=230

		n	父親への育児支援		p
			いつも行う	必要な時に行う 行わない	
父親への育児支援の必要性	とても必要	134	50 (37.3)	84 (62.7)	p<0.05
	あまり必要ない/必要ない	92	4 (4.3)	88 (95.7)	
育児支援対象者	母親	215	47 (21.9)	168 (78.1)	p<0.05
	両親/父親/その他	11	7 (63.6)	4 (36.4)	
主育児者	母親	92	19 (20.7)	73 (79.3)	NS
	両親/父親/その他	131	35 (26.7)	96 (73.3)	
父親の役割は育児分担	はい	200	49 (24.5)	151 (75.5)	NS
	いいえ	24	5 (20.8)	19 (79.2)	
父親の役割は経済的支援	はい	128	29 (22.7)	99 (77.3)	NS
	いいえ	96	25 (26.0)	71 (74.0)	
父親の役割は精神的支援	はい	197	47 (23.9)	150 (76.1)	NS
	いいえ	27	7 (25.9)	20 (74.1)	
父親への育児支援内容を 母親に確認する	いつもする	47	19 (40.4)	28 (59.6)	p<0.05
	場合によってする/しない	179	35 (19.6)	144 (80.4)	
父親への育児支援内容を 父親自身に確認する	いつもする	28	15 (53.6)	13 (46.4)	p<0.05
	場合によってする/しない	198	39 (19.7)	159 (80.3)	
父親の育児に関するネガティブな 感情を母親に確認する	いつもする	27	12 (44.4)	15 (55.6)	p<0.05
	場合によってする/しない	198	41 (20.7)	157 (79.3)	
父親の育児に関するネガティブな 感情を父親自身に確認する	いつもする	20	3 (15.0)	17 (85.0)	NS
	場合によってする/しない	205	50 (24.4)	155 (75.6)	
父親のネガティブな感情を軽減する 関わりをした	した	157	47 (29.9)	110 (70.1)	p<0.05
	していない	51	4 (7.8)	47 (92.2)	

p: フィッシャーの直接確立検定,  $\chi^2$ 検定, NS: 有意差なし

はネガティブな感情も存在する<sup>6)</sup>ため, NICU スタッフは父親の育児や児に対する気持ちを確認したうえで実施方法を検討する必要がある。

NICU スタッフの特性をみると, 認定看護師は父親への育児支援を「いつも行う」と回答した割合が多かった。新生児集中ケア認定看護師の教育カリキュラム<sup>7)</sup>には期待される能力として“心理的な危機状態に直面している家族が, 子どもとの関係を築けるよう支援することができる”との内容が含まれている。認定看護師は家族への支援についての教育を受けているため, 母親のみならず, 父親にも積極的に関わっているものと考えられる。

育児経験がないNICU スタッフの方が, 父親へ育児支援を「いつも行う」割合が高かった。母親にとって必要なサポートは具体的な家事・育児協力ではなく, 父親の理解と夫婦間の精神的な絆の強さであり, それがポジティブな母性感情をはぐくむことが明らかになっている<sup>8)</sup>。したがって, 育児経験のあるNICU スタッフは父親に対して精神的な絆の強さをより求めており, 育児参加できる時間の短い父親に, あえて指導する必要がないと考えているのではない

かと推測される。

学習の経験があるNICU スタッフは, 学習の経験がないNICU スタッフより, 父親への育児支援を「いつも行う」割合が高かった。今回の調査では, 学習の内容を確認していないため, 学習内容の詳細は不明だが, 学習をすることそのものが父親の育児に関する関心を高め, 父親との関わりを多く持とうとNICU スタッフの意識に働きかける行動に繋がったのではないかと考えられる。NICU の特性では, 面会時間の配慮がある場合に, 父親への育児支援を「いつも行う」割合が高かった。就業時間が長く, 職場の育児支援制度や風土等により父親が育児に参加しづらい職場の体質<sup>9,10)</sup>であれば, 日中の限られた面会時間に合わせて来院することは困難である。面会時間の配慮により, NICU スタッフは父親と接触する機会が増えるため, 育児支援の実施に繋がるのではないかと考えられる。

父親へのカンガルーケアを実施していること, 父親の育児参加を勧める取り組みがあることで, 父親への育児支援を「いつも行う」割合が高くなった。NICU として父親の存在を意識した取り組みをしていることが, 父親への育児支援に関連したと考えられる。

育児プログラムがある場合、中でも育児支援プログラムの対象者を母親と認識している場合には、父親への育児支援の実施を「いつも行う」割合が低かった。プログラムがあり、その対象者が母親のみの場合は、育児者の中心的担い手を母親と位置付けており、父親への育児支援の優先順位が低くなり、父親への育児支援の実施が低い可能性が示唆された。

父親の育児に関する認識では、父親への育児支援を「とても必要」と認識していること、育児支援対象者を「両親／父親／その他」と認識していることにより、父親への育児支援を「いつも行う」割合が高かった。また、父親の育児に関する心理の把握では父親への育児支援内容を母親および父親自身にいつも確認する、父親の育児に関するネガティブな感情を母親にいつも確認する、父親の育児に関するネガティブな感情を軽減する関わりをすると回答したNICUスタッフは、父親への育児支援を「いつも行う」割合が高かった。育児支援対象者を母親と認識しているNICUスタッフは、父親への育児支援は「必要な時に行う／行わない」割合が高く、あくまでも父親は母親のサポート役としての認識であり、主育児者の一人として父親の役割を認識していないのではないかと考える。NICUスタッフが父親と接する時間は、母親と接する時間より少ないことが予測される。一方で、少ない時間であっても父親の存在を意識し、育児支援対象者の一人として認識し、父親の育児支援内容の希望や、育児に関するネガティブな感情に目を向けようとしているNICUスタッフも存在することがわかった。そのようなNICUスタッフは父親への関心が高いと考えられる。関心の高さから父親への接触の頻度が高くなり、父親の育児支援内容の希望を確認し、日程を調整しようとして、父親への育児支援の実施の割合の高さにも関連することがうかがえる。また、NICU入院児の父親が抱く育児に関するネガティブなイメージを軽減できるように働きかけることが必要である。NICUスタッフの働きかけにより、父親が児と接触できる機会を多く持つことで、ネガティブなイメージが払拭され、父親自身が主育児者としての自信をつけ、育児への関心を継続して持てるようになることを期待したい。

## 2. 看護実践への示唆

父親への育児支援の実施を推進するには、NICUスタッフ自身が父親に育児支援を行う意義や必要性を強

く認識し、父親への関心を高めることが重要である。そのためには、NICUスタッフが父親も不可欠な主育児者の一人であると認識できるような教育の機会を提供する必要がある。育児に関するNICUスタッフへの教育の内容には、育児に困難を来しやすいNICU児だからこそ、父親が育児に参加する意義、父親や母親がどのような役割分担を望み、どのような知識や技術を必要としているか、父親の育児に関する思い、児の状態によって変化していく父親の心理、父親が役割を担うことによる父親自身の生活・精神面での変化や負担、父親を取り巻く環境<sup>9-11)</sup>、性差による思考の違い<sup>12)</sup>等を含めることが望ましいと考える。そして、このような学習は、看護師教育<sup>13)</sup>では“育児方法の援助の理解”にとどまっており十分に行われているとは言えないため、看護師基礎教育の段階から意識付けることが必要である。

NICUの環境においては、NICUスタッフによる父親への働きかけがしやすいように、面会時間の制限の緩和等、日中に来院することが難しい父親へ面会の配慮を可能な限り組織的に整備することを期待する。また、父親が、なかなか面会に来られない場合には、例えば書面や視聴覚教材の使用等、対面指導以外の方法で育児支援を行うことも考えられる。

NICUスタッフへの学習の機会の提供はもとより、組織としての配慮や、多様な援助方法で父親に関わるための協力を得ることで、NICUスタッフが父親への育児支援を積極的に行うことができると考える。

## 3. 研究の限界と今後の課題

今回の調査では父親への育児支援の詳細な内容を確認できなかった。育児支援の内容は児や両親の状況による個人差が大きいため、回答が困難であると判断したためであるが、個別にNICUスタッフを対象としたインタビューを行い、育児支援の詳細を把握し、父親への育児支援を困難にしている要因を明らかにする必要がある。

また、本研究ではNICUスタッフによる父親への育児支援の実態を調査したが、児の入院期間や重症度により父親自身の育児参加への意識、NICUスタッフに希望する支援内容や方法、時期等が異なる可能性がある。10年以上前には、父親は少し距離をおいて見守るといった親役割が文化的性役割により固定化されている<sup>14)</sup>との見解があったが、時代の変化により、その頃

とはニーズも変化していると考えられる。そのため、父親の育児支援に対するニーズを調査する必要がある。ニーズによっては、臨床心理士等の他職種の協力を得て、多方面からの、より効果的な父親への支援を行う必要がある。さらには、NICUスタッフが、父親も不可欠な主育児者の一人であると意識できる教育が求められる。教育により、NICUスタッフが父親への関心を高めること、父親への育児支援の必要性を認識すること、そして父親のニーズに合った育児支援の実施を推進することが必要である。

## 謝 辞

本研究を行うにあたり、調査に御協力いただきました対象病院の関係者およびNICUスタッフの皆様に深く御礼申し上げます。なお、この論文は北海道医療大学看護福祉学研究科修士論文の一部に加筆修正をしたものである。

利益相反に関する開示事項はありません。

## 文 献

- 1) 橋本洋子. NICUとこころのケア—家族のこころによりそって. 第2版. 大阪:メディカ出版, 2011:116-119.
- 2) 三ツ木愛美, 角山智美, 深谷悠子, 他. NICUにおける父性育成に向けた援助と対児感情の変化. 日農医誌 2009; 58: 90-93.
- 3) 中井祐一郎, 張良実, 郭翔志, 他. 早産児の抱える社会的問題. ペリネイタルケア 2011; 30: 45-48.
- 4) 北海道保健福祉部医療政策局. 北海道周産期医療体制整備計画. <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/syusankikeikakuH23.pdf> 2011; 2012, March30
- 5) 小西美樹. NICU入院早期における家族への発達の介入に関する研究. 平成20年度～平成21年度科学研究費補助金若手研究成果報告書, 2011: 1-45.
- 6) 関森みゆき. NICUにおいて早産児の父親が育む我が子との関係性. 日本新生児看護学会誌 2006;13:2-7.
- 7) 日本看護協会. 認定看護師の知識と技術. <http://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/nintei/know-how.html> 2012; 2012, November12
- 8) 大西由希子, 良村貞子. 伝統的母性観の影響下における母親の育児観. 北海道大学医療技術短期大学部紀要 1997; 9: 1-12.
- 9) 佐々木卓代. 男性の育児意識と育児参加. 小児看護 2012; 35: 1299-1304.
- 10) 深川周平, 佐伯和子. ワーク・ライフ・バランスにおける父親の育児参加に関する研究の動向. 北海道公衆衛生学雑誌 2011; 25: 45-52.
- 11) 及川裕子, 宮田久枝, 新道由記子, 他. 現代日本における男性と出産・育児. 園田学園女子大学論文集 2012; 46: 43-58.
- 12) 三田雅敏, 伊藤知佳, 指宿明星. 男女の思考パターンに違いはあるか? 男脳・女脳の分析. 東京学芸大学紀要 2007; 59: 37-41.
- 13) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書. <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001310q-tt/2r9852000001314m.pdf> 2011; 2012, November20
- 14) 鮫島雅子, 佐藤香代. NICU入院児を持つ両親へのケアに対するニーズ. 母性衛生 1995; 36: 81-86.

## 〔Summary〕

A questionnaire survey was conducted of 230 NICU staff members for understanding the practice of child care support provided by these members and the factors involved in the support. The staff members who constantly give support about child care to fathers were found to account for 23.5%. The practice of child care support is affected by whether or not the staff members are certified nurses, have experience in child care, or have learned about the father's roles in child care. In providing support, the staff members give extra consideration to fathers' NICU visiting hours, fathers' commitment to "kangaroo care," efforts for encouraging fathers to take part in child care, child care programs and participants in the programs, needs for child care support, and fathers in need of child care support. The staff members also make efforts to check the validity of child care support given to fathers and to alter fathers' negative attitude toward their roles in child care. To promote the practice of child care support to fathers, NICU staff members should recognize the necessity of child care support and understand more about the fathers' roles in child care. Thus, education provided to these staff needs to ensure that they acknowledge the indispensable roles that fathers play in child care.

## 〔Key words〕

father, child care, support, NICU, nurse